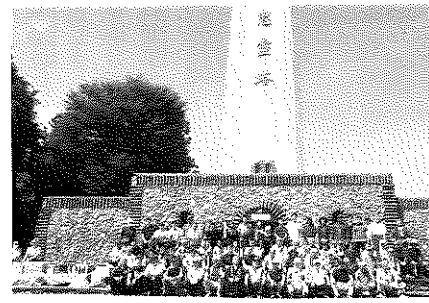
青森県偕行会
「忠霊塔」周辺清掃奉仕など

会長　稲村　孝司　陸自75

青森県偕行会は、昨年に引き続き8月5日、弘前市西茂森町の禅林街長勝寺敷地内に位置する「忠霊塔」周辺の清掃奉仕を、自衛官ボランティア56名、隊友会員及び市民ボランティアら31名と協働で行った。

今年は列島同様に猛暑が続き、作業開始の8時から気温35度という炎天下の中で、草刈り機が「ウイーン」とけたたましい音をたてて作業が進んだ。

今年は、7月23日に「忠霊塔を守る会」の発会式があったことから、例年に比して約半分の作業量で済んだ。手をもてあました者は、忠霊塔から続く国の重要文化財である長勝寺裏の庭園まで除草を広げ同寺住職から深く感謝された。

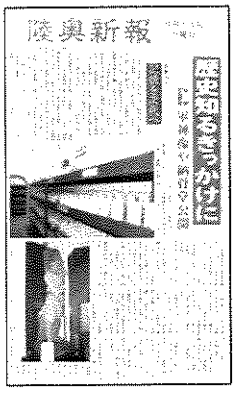


参加者全員での記念撮影

約2時間の作業終了後には、長勝寺須藤龍哉住職による慰霊の読経が、忠霊塔内本堂前で行われた。須藤住職は、塔を管理する「宗教法人弘前仏舎利塔」の代表も務めている。読経が続けられる中、萱沼弘前駐屯地司令始め参加自衛隊員及び偕行会員等全員が忠霊塔1階中央の祭壇で焼香した。

清掃終了後、忠霊塔右（北）側の陸軍墓地に供花、供酒し焼香拝礼した。

周辺清掃を終え、内部の遺骨が整理された内部を8月12日から14日の3日間一般開放した。お盆の期間であり、法華経の三十三観音に因み、曹洞宗三十三寺が配置されている禅林街には、墓参りで多くの人が訪れる。3週間前には忠霊塔を守る会発会式の記事が、地元東奥日報及び陸奥新報の一面に大きく報道されたことから、忠霊塔に足を運ぶ人も多く、守る会会員による説明に大きく頷いていた。その様子は、13日の陸奥新報に一面で報道された。タイトル「歴史を知るきっかけに　弘前忠霊塔軍神像や納骨堂公開」と7段101行の記事と、骨壺が並ぶ納骨堂と忠霊塔の本尊として、三国慶一氏によって制作された軍神像の写真で紙面の3分の1を占めた。また、東奥日報は、社会面にタイトル「納骨堂やパネル展示　弘前忠霊塔内部公開」と4段45行の記事と、本県出身の特攻隊員についての展示パネルを見る来場者＝12日午後、弘前忠霊塔の第2展示室の写真が掲載された。



陸奥新報

歴史を知るきっかけに

東奥日報

全国の偕行社会員の皆様、是非弘前忠霊塔を訪問して下さい。開放日以外でも内部を青森県偕行会がご案内致します。